

平成27年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日時 平成27年7月22日(水) 午前10時～

2 場所 考古博物館(風土記の丘研修センター)

3 出席者 (敬称略)

(委員) 飯野章、飯野奈津子、柿島美保子、小林千澄、齋藤洋子、武井多加志、
田中倭子、谷口一夫、長澤宏昌、堀内邦満、望月立弥 9名

(事務局) 萩原館長、駒井副館長、保坂次長、田中学術文化財課長、村石学芸課長、
総務課員3名

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状・任命状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 事務局職員等紹介
- (5) 議事
- (6) その他
- (7) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成26年度考古博物館事業実績について
- (2) 平成27年度考古博物館経過・予定事業について
- (3) 考古博物館利用状況について
- (4) その他

6 議事の概要

(委員)

「縄文王国」実行委員会は以前からあるのか。

(事務局)

ある。

(委員)

山梨県が縄文王国だということをもっとアピールするべきであり、良い取組だと思う。

(事務局)

事務局は当館にあり、縄文関係の博物館7館等が協同で実施。

(委員)

今年度はさらにその活動に力を入れていく予定か。

(事務局)

縄文時代がブームになっており、考古博物館の特別展も縄文時代を扱ったものなので盛り上げていきたい。釈迦堂遺跡博物館や北杜市考古資料館などの他の館でもイベントや特別展に取り組んでいるところ。

(委員)

今回の特別展は縄文のアートというテーマのもと、縄文土器の見方・おもしろさをメインに実施。その後、県立博物館で縄文王国のイベントを実施するというので、細部は異なるものの山梨の縄文のすごさをアピールするという意味では同じ。考古博物館と県立博物館で内容の相談・調整はしているのか。また、縄文王国ということで広報を行っているが、これはアピールが目的なのか、それとも世界遺産を目指すなどその先の目的があるのか。例えば、青森県は全県をあげて三内丸山遺跡の世界遺産登録を目指している。山梨県・長野県あるいは中部高地として世界遺産への流れに乗り、最終的には「日本の縄文」といった形でやっていこうと考えているのか。

(事務局)

今年は縄文関係をメインに様々な展示・発表を予定。去年は古墳のシンポジウムや見学会を実施。考古博物館の周辺は古墳地帯であり、山梨県は縄文時代の非常に優れた土器が多数存在しているため、取り上げた。「縄文王国」というのは7館が集合して事業を実施。今回はさらに集中的に情報発信を行う。もちろんアピールという目的もあるが、さらに深い研究レベルを追い求めていこうという目的もある。考古博物館で行うのは展示・シンポジウム・フォーラム。その他埋蔵文化財センター主催で行う研究レベルのシンポジウムも連動させていく。今年は1年中縄文に集中してアピールしていく予定。山梨県を中心とした縄文土器は非常に多彩で芸術的に優れているので県外・関西方面並びに世界の方から非常に注目をされており、むしろ県内に縄文文化の造形美などについて御理解頂いていない方が多くいる。切り口を少し変えてみようということで、さらに詳細で多彩な視覚から縄文土器を見てもらい、単なるアピールで終わるのではなく、縄文土器の美の奥深さ・広さを知っていただくのが目標。世界遺産は遺跡が中心であり、青森県・北海道の遺跡が暫定登録となっている。世界遺産は土器ももちろんあるが、遺跡の方が登録されやすい。山梨県は土器などの出土品にとっても優れたものがある一方、目立った遺跡が残されていないため、世界遺産の対象になりにくい。山梨県・長野県・群馬県の土器も合わせていければ良いのだがなかなか難しい状況。今までも世界遺産の話はあったが基本的には登録に向けては困難性が高いと考えている。ただ、今の時代にまで伝わってきている縄文土器をもう1度根底から見直してみようというのが大きな趣旨にある。7館がそれぞれ連動して活動し、県立博物館が最終的にまとめを行う。今年は縄文土器一色の年にしていきたい。

(委員)

非常にたくさんの事業・学習会がされており、参加人数もかなり多いので素晴らしいなと思いつつ聞いていた。質問が2点。夏休みや学校のお休みの日を使って学習会などを行っているが、参加人数は年々どのような傾向にあるのか。親御さんに意識があって連れてきてくれないとなかなか子供達だけが来るのには困難な場所。教育委員会にお願いをして勤めている学校に縄文土器を飾ってもらっている。郷土学習ということで遺跡を訪ねたりしており非常に意識が高まっていると感じているが、学校の方でも広報不足であるならば強化して頂きたい。また、秋の校外学習で考古博物館を訪れる学校が多いという話だったが、学校の外に出るためにはまずバス代が必要で、そこを確保しなければ外に出られないという課題がある。その関係で出前講座もしていただいているが昨年度の様子はどうか。出前講座は回数に限度があ

ったりなどすると思うが学校側としては出前講座に来ていただけるととてもありがたい。幅広く出前講座をしていただければと思う。

(事務局)

参加人数の変化については後ほど報告させていただく。また、出前講座を行っているのは埋蔵文化財センターで考古博物館と埋蔵文化財センターでそれぞれ役割分担を行い、対応しているところ。具体的には考古博物館は施設があるので、考古博物館に来て施設を利用して頂いている。出前講座に関してデータは持っていないが、毎年たくさんの学校からご要望をお受けしている。多くのご利用を頂くため、ぜひ活用して欲しい。

(委員)

昨年行われた企画展にも小中学校生が団体で訪れたり、親子連れで訪れたりしていたが、高校生が来ていないと感じた。高校には地歴公民科部会という社会課の先生達が集まってやっている組織がある。その中で高校生の地歴公民科部会の発表が様々なジャンルで1回行われている。高校生の発表に関しては学校に社会科学部会という部活がある学校ではその部活に所属している生徒が発表をするか、地歴の教員が生徒に呼びかけて発表をする。そのような状況で考古博物館を利用しているが、学校も授業の中で生徒をまとめて体験学習等々で考古博物館を利用することはあまりない。せっかく山梨県にこれだけの土器があるのだから生徒達を特別展に連れて来るなど、考古博物館がもっと近い存在になればと思う。

(委員)

地歴公民の分野だけではなく、自然環境の分野でもスーパーサイエンスハイスクールとして国の指定を受けている高校が発表会を実施。夏休みなどを利用しながら様々な施設に行き、子供達が興味あるものを自分達で見つけてくれれば良いなと考える。自然環境もそうだが、「保護と開発」という側面に常にぶつかる。遺跡についても「保護と開発」があると思う。今年の企画展に出したのも縄文ばかりではなく、近代も扱っている。そういった中で子供達に、昔のものを残しておくことの重要さを意識付けることも必要だなと感じている。家のお蔵にあってどんどん捨ててしまうものの中にもよく見ると大切なものがたくさん残っていることがよくあるし、学校の工事の際にも地下に埋蔵文化財があった例もある。そのような時に興味がある人や子供達のために残しておくということが必要。このような企画展をして頂くことは子供達にとって良いことであるし、私達も参加を促していきたい。考古博物館から1番近い高校に勤めているので何か協力できればと考えている。

(事務局)

小中学校では多くの団体で利用して頂いている。特に県外からの来訪が多くなってきている。高校からの来訪は非常に乏しいのが現状だが、理由としては受験などがあると考えている。同時に大学生の来訪者数も非常に少ない。かつて縄文以前は教科書から消えた、という時代があった。考古学の世界で非常に問題となり、文部科学省への働きかけをして最近ではまた徐々に復活をしつつあるので、小中高の生徒達ももう少し原始などの時代に注目してくれるのではないかと。また、最近では考古学の幅も広がり、古代だけではなく近代のものも考古学の対象となり、多様な内容を扱うようになってきている。考古博物館としては高校生にもっと目を向けてもらうという大きな願いがある。

(委員)

「わたしたちの研究室」の場所がわかりづらかった。それが原因なのか署名簿に名前を記入している人がとても少なく感じた。せっかく多くの方に来ていただいているので、子供達の素晴らしい研究まできちんと見て頂きたかった。同年代の子供達の研究をもっと多く見てもらえれば、そこから興味を持つ子供達もさらに増えるのではないか。学校としても刺激になる。学校として見学に来るとなるとバス代という大きな問題があると知り、なかなか難しい状況なのかなと感じているが、県内にこんなに素晴らしい土器がたくさんあるということを示す小さい頃から見せてあげて、興味・関心を持ってもらえればと思う。

(委員)

イベントの参加料はあるのか。また、5月に古代食の試食のイベントがあるが、“古代の食の再現や現代に至るまでの食事”・“人間の体の形成の関連性”・“古代からの食事の移り変わり”などに関するイベントなどがあれば良いと思うのだが、そのような計画はあるのか。

(事務局)

県直営で行っているものは小中学生無料であったり、勾玉作りなどは実費をいただいていたりと、様々。1番高価なイベントは青銅鏡作りで材料代や手間を考えると高めの設定になっている。他のものはだいたい500円程度。また、古代食のイベントに関してはどんぐりの粉を扱ったものを提供。手作りなのでなかなかたくさんを用意するのは難しいが、イベントの際は美味しく頂いている。古代食を舌で味わうような企画をしていきたい。

(委員)

「縄文王国」を色々な切り口で行うということで非常に期待している。特に、「どきどき・かわいい探し」のデッサンコンテスト。子供達は絵を書いたり、色を塗ったりすることが大好きなので、小学生などを対象に大々的に宣伝してたくさんの子供達に参加してもらおうとそれぞれ関心が深まると思う。また、「縄文フォーラム2015(仮称)」は新しい公民館である中道の支所を使う予定だが、たまにはそういった所へ出前講座をすると、考古博物館までは来られない地域の人が気軽に集まりやすいと思うので、そのように裾を広げていくのも良いのではないか。また、夏休みのイベントはスタンプラリーや火起こし体験や勾玉作りなどがあるが、毎日それぞれプログラムが違うのか。プログラムがあるならば、何らかの方法で知ることは出来るのか。併せて、毎回言わせていただいているが、やはり「足」の問題はどうにかならないのか。

(事務局)

イベント等はHP上や各博物館のエントランスでプログラムの確認が可能。また、アクセスについては時間をかけて検討していかなくてはと考えている。特に東京方面の人にはロケーションも良く、自然も豊かで、遺跡もあって、博物館もあって、とても素晴らしい場所だというお言葉を頂く。むしろ県内の人のアクセスが悪いので、このことに関して良い方法を見つけるべく、根気よく取り組んでいきたい。考古博物館のみならず、山梨県の産業全体の大きな問題と認識している。「どきどき・かわいい探し」のイベントには、実は縄文土器の特別展に併せて土器をじっくり観察してもらおうという狙いがある。他の細かいイベントも様々な狙いを持って行っている。事業も数がとても多いので整理をしたいと考えているが、学芸員の努力や根強い人気もあるので、引き続き実施を予定。

(委員)

古代衣装貸し出しについて利用報告はもらっているのか。また、貸し出しの際は届けているのか。また、クリーニングはしてもらっているのか。

(事務局)

利用報告はその都度いただいている。こんなイベントで使いました、という形で写真入りのものもあつたりする。県外からのリクエストも多い。また、基本的に学校などが対象になっており、送料は負担してもらっている。汚れた場合はクリーニングをお願いしているが、汚れていない場合には陰干しをして返送、という形をとっている。実物をリアルにというよりも体験用に使うために作ったもの。衣装を着て火起こし体験などをすると痛んでしまうが、静かに利用する分にはクリーニング代などがかからないようになっている。年に1回は考古博物館の方でクリーニングをしている。

(委員)

「わたしたちの研究室」について。応募があった作品数・展示されている発表などの応募結果の概要的なものは各学校に送っているのか。それぞれの地域で同じように取り組める課題を見つけやすくなると思うので、各学校に結果をお送りするか、募集の際に前回の応募の研究内容などを紹介すると良いのではないかと。

(事務局)

参加した学校にはもちろん結果を送付し、「考古博物館だより」に具体的な内容を載せ各学校に配っているので十分内容は伝わっていると思う。今年新しく来た教育主事が義務教育課で行っているものについては知っていたが、「わたしたちの研究室」のことを知らなかったので、義務教育課と連携して進めていきたい。学校の先生方に広く知ってもらいたいと強く思っている。考古学の部分も含めた郷土史全般について研究をしてもらいたい、ということも含めて各学校にアピールをしていく。

(委員)

今日改めて素晴らしい取り組みをしていると感じた。自分達が生まれ育った土地のことを知って魅力を感じてもらうことはとても大事な事。今は東京などに出て行ってしまふ若者が多いが、自分達の暮らしている町に誇りを持ってもらうために、1つ1つこのような取り組みが重要だと思ふ。私達マスコミも応援していきたい。「縄文王国」の取り組みもぜひ取材をしたい。

- 以上 -